

いのちの言の葉2013

富山県教育委員会平成25年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの教育講演会」

砺波市立庄川小学校

平成26年2月14日実施

【授業の概要】

- 1, 食べ物といのち
- 2, 元気な体と病気の体
- 3, 人に喜んでもらう生き方

【いのちの先生】

橋本 哲先生

・砺波市総合病院長

私は命は大切だと改めて思いました。いつも食べている肉を育てている人の気持ちを考えなかったけど、うちでかっている金魚が死んでしまうのと同じことなんだと思いました。私は病気になったことはないけど、健康な体でいられることは幸せなことなんだと思いました。それとディズニーの話で、自分のお金を使って人を喜ばせようとするのはやさしいなと思いました。それにサインを全部あつめるのもすごいけど、仲間がサインを集めている間に、その仲間の分の仕事をするのもやさしいなと思いました。

わたしは命はとっても大切だとあらためて思いました。わたしは、なにげなくあそんだり、走り回ったりしていたけど、それも大切に大事なことだと思いました。ディズニーで本当にあった話では、キャストさんが、そんなことをするなんて思ってもいなくて感動しました。わたしだったら、そんなこと考えもしなかったかもしれないのに、「人を喜ばせたい」という気持ちがあるので、りっぱだと思いました。わたしもそんなふうになりたいです。



牛がもうすぐお肉になって食べられてしまうのが、とてもかわいそうでした。病気の人がとてもかわいそうでした。私が病気の時、健康な人がうらやましかったです。私は健康な体があって、とてもうれしいです。また、男の子の話で、キャストはいい人だと思いました。その男の子が病気だと知らないのに、男の子のお父さんがなくした男の子の大切なサイン帳を新しく買い、ディズニーのキャラクターのサインを全部集めて、男の子のお父さんにくれたからです。

